

2015 火山砂防 フォーラム in 阿蘇リポート report

テーマ

火山を知り、火山と共に生きる ～阿蘇ジオパークの防災を考える～



園市役所総務課 防災対策室 ☎ 22-3111

火山砂防フォーラムが10月29日、30日に阿蘇市で開かれ、全国各地の火山周辺市町村長や関係者など約500人が参加しました。

このフォーラムは、活火山周辺における安全確保と地域振興の両立を図るために求められる取り組みについて、近年の噴火事例などを踏まえたうえで情報の交換を行ない、今後の対策の指針を得ることを目的に、活火山周辺市町村を主会場に毎年開かれているもので、阿蘇市では初めて開催されたものです。

市内の中・高校生による研究発表

フォーラムの前半は、一の宮中学校2年生と阿蘇中央高校1年生が、ステージで研究発表を行いました。

一の宮中学校2年生は「活火山阿蘇山とつきあう」というテーマのもと、火山や大雨がもたらす災いを理解しながら、「防災」の中で中学生に求められる役割として、来年4月に開校する一の宮小学校の

開催概要

- 研究発表 「活火山阿蘇山とつきあう」
(発表者)阿蘇市立一の宮中学校(2年生)
熊本県立阿蘇中央高等学校(1年生)
- ポスターセッション・展示
「全国からの火山防災対策の取り組み報告」
- パネルディスカッション
「噴煙を上げ続ける火山との共生」
〈コーディネーター〉
・池谷浩(阿蘇市防災アドバイザー、(一財)砂防・地すべり技術センター研究顧問)
〈パネリスト〉
・石原和弘(火山噴火予知連 副会長、火山活動評価検討会 座長)
・木部直美((公財)阿蘇グリーンストック)
・河野まゆ子(JTB総合研究所観光危機管理研究室 主任研究員)
・佐藤義興(阿蘇市長)
・西山幸治(国土交通省砂防部長)
・沼川敦彦(熊本県危機管理防災課長)

児童に対してできることを考え、危険箇所マップの作成に取り組み、その成果を発表しながらまとめられたマップは細かく作られていました。

また、阿蘇中央高校は、平成24年九州北部豪雨災害の際に全校生徒で行ったボランティア活動をきっかけに、総合的な学習の時間を活用した「阿蘇ジオパーク学」に取り組んでおり、今年度の「阿蘇ジオ

パーク学」での学習内容を発表しました。

1年生88名がこのフォーラムに向けて、「安全で魅力ある阿蘇ジオパークを目指して」というテーマのもと、世界各地から多くの方に安心して阿蘇に来てもらうにはどうしたら良いのかを4つのサブテーマに分かれ発表しました。

映像、グルメリシピ、観光プラン案、情報の提供方法、案内ポスターなど、鋭い視点から



- ①「阿蘇ジオパーク学」の中での学習を通して、世界各地から阿蘇に来てもらうために必要なことを、さまざまな視点から提案した。(阿蘇中央高校)
- ②小学生のために作成した「危険箇所マップ」を発表。生徒の目線で細やかに作られ披露されたマップに、参加者はシャッターを切った。(一の宮中学校)





パネルディスカッションでコーディネーターを務めた池谷氏。風評被害の状況を踏まえ「地域外の方に正確な情報をいかに発信するかが重要。安全な場所を伝えるため、具体的な距離を示し発信していく必要がある」などと話した。



- ①全国各地から関係者が参加。中・高校生の研究発表では、多くの参加者が関心を寄せた。
- ②会場には火山防災対策に関するさまざまな資料が展示された。
- ③パネルディスカッションで発言する佐藤市長(中央)



火山砂防フォーラム 阿蘇山宣言

火山砂防フォーラム委員会は「火山を知り火山とともに生きる～阿蘇ジオパークの防災を考える～」をテーマに、全国から約500名の参加を得て、第25回火山砂防フォーラムを開催した。各地の火山が活発化し火山との「共存」が求められる中、ここに、火山砂防フォーラムは以下のとおり宣言する。

記

1. 阿蘇のジオパーク活動を通じて、平時から住民の参加を得て火山について学び、阿蘇山の恵みに感謝しつつ地質遺産と文化を後世に引き継ぎ、内外との交流と地域振興を進めよう！
2. 火山地域の災害リスクを正しく理解し、火山噴火や豪雨による災害を防止するため、火山砂防事業を推進するとともに、有事の際に早めの避難が実行できるよう地域の取り組みを強化しよう！
3. 火山の防災体制強化と地域振興の両立のため、火山砂防フォーラムの委員は地元住民の声を代表し、火山地域の実態を全国に発信する場を創設し実践しよう！

平成 27年 10月 29日
火山砂防フォーラム委員会
熊本県阿蘇市にて

議論飛び交った 噴火報道の在り方

多くの斬新なアイデアの提案があり、来場者の関心を引いていました。

フォーラム後半のパネルディスカッションでは、阿蘇市防災アドバイザーを務める池谷浩氏がコーディネーターとして登壇し、6名のパネリスト(右が参照)とともに、噴火が続く火山との共生をテーマに議論が交わされました。

まず、全国の活火山の活動状況、活動火山対策特別措置法の改正に関する情報共有を行い、続いて昨年11月以降の活動活発化を踏まえた阿蘇山周辺地域の防災力向上に向けた方策、そして近年の火山噴火がもたらす噴火による観光客の減退にどう対処すべきかについて、パネリストそれぞれの立場から活発な意見や提言がなされました。

では、これまでほとんど議論がなされなかったマスコミ報道の在り方に関して一歩踏み込んだ意見もあり、民間企業や関係組織が連携し、安全対策を最優先としながらも、効果的な情報発信による課題解決の重要性が示されました。

阿蘇市では、風評被害の影響で入込客が減少し、観光面に大きな影を落としました。今回のディスカッションが、今回のディスカッション

最後に、佐藤市長が「火山砂防フォーラム阿蘇山宣言」を読み上げ、地域振興と防災の重要性など、火山とともに生きる阿蘇から全国に向けて発信しました。



登壇し、「阿蘇山宣言」を読み上げる佐藤市長。会場から大きな拍手で宣言は承認された。

フォーラム終了後の意見交換会で、来年の開催予定地である長野県木曾町の原久仁男町長がふるさとをPR。御嶽山を有する木曾町の魅力を参加者にアピールした。

